

Sustainable Report No.088

動物を守る 保護犬の"就職"



サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 2021年度に全国の保健所等に引き取られた犬・猫は58,907匹で、そのうち**14,457匹が殺処分**された
- コロナ禍のペットブームで販売数が増加した一方で、安易に飼い始めて**育てきれず飼育放棄された犬や猫が増えている**
- 動物の殺処分を免れるために、ボランティアなどによる**保護団体ができるも飼育が追い付かない**

■ 犬・猫の引取り及び処分の状況（P.3参照）

	引取り数				処分数									
	飼い主から		所有者不明		合計	返還数 のうち 幼齢個体	譲渡数 のうち 幼齢個体	殺処分数 ※				殺処分数 のうち 幼齢個体		
	成熟個体	幼齢個体	成熟個体	幼齢個体				①	②	③	合計			
犬	2,657	207	16,572	4,666	24,102	8,402	19	13,116	4,106	1,891	358	490	2,739	540
猫	6,777	2,825	4,511	20,692	34,805	224	31	22,888	15,476	4,834	3,822	3,062	11,718	7,407
合計	9,434	3,032	21,083	25,358	58,907	8,626	50	36,004	19,582	6,725	4,180	3,552	14,457	7,947

出典：環境省 / 赤枠：筆者追加

■ ペットブームの背景にある悪徳繁殖業者の発生

犬1000匹劣悪飼育の業者、なぜ営業を続けてこられたのか「暗部」隠す生体販売ビジネス



アニマル福祉から飼育者に移された犬、毛玉に繋がっていたため丸刈りに。業者撮影

飼育していた多数の繁殖犬を虐待したとして長野県警は11月、動物愛護法違反（虐待）容疑で男2人を逮捕した。

逮捕されたのは同県松本市内において「アニマル純太郎」の屋号で繁殖場を営む会社の社長だった百瀬耕二容疑者とその社員、2人は飼育していた犬たちを、劣悪な環境で衰弱させたり、病気になったのに適切な措置をしなかったりした疑いがある。同市内の2カ所で計約1千匹の犬を飼育し、繁殖した子犬を埼玉県内のペットオークション（競り市）に出品、ペットショップに販売していたという。

ペットの販売数増加の背景には、劣悪な環境で大量に飼育する繁殖業者の存在があった。長野県警は2021年11月、動物愛護法違反（虐待）容疑で男2人を逮捕した。飼育していた犬たちを、衰弱させたり、病気になったのに適切な措置をしなかったりした疑いがある。同市内の2カ所で計約1千匹の犬を飼育し、繁殖した子犬を埼玉県内のペットオークションに出品、ペットショップに販売していたという。

画像出典／文章参照：Yahooニュース

▶NEXT：犬や猫と暮らせる老人ホームを開設

	引取り数					処分数								
	飼い主から		所有者不明		合計	返還数	返還数 のうち 幼齢個体	譲渡数	譲渡数 のうち 幼齢個体	殺処分数 ※				殺処分数 のうち 幼齢個体
	成熟個体	幼齢の個体	成熟個体	幼齢の個体						①	②	③	合計	
犬	2,657	207	16,572	4,666	24,102	8,402	19	13,116	4,106	1,891	358	490	2,739	540
猫	6,777	2,825	4,511	20,692	34,805	224	31	22,888	15,476	4,834	3,822	3,062	11,718	7,407
合計	9,434	3,032	21,083	25,358	58,907	8,626	50	36,004	19,582	6,725	4,180	3,552	14,457	7,947

※ 令和元年度事務提要より犬及び猫の殺処分数を下記「動物愛護管理行政事務提要の殺処分数の分類」のとおり①～③に分けて集計した。

- ① 譲渡することが適切ではない（治癒の見込みがない病気や攻撃性がある等）
- ② ①以外の処分（譲渡先の確保や適切な飼養管理が困難）
- ③ 引取り後の死亡

画像・文章：環境省 / 赤枠：筆者追加

■ 実行者／解決方法／残る課題

- **介護施設や保育園を運営する株式会社アプルール**では、高齢者の方が毎日をより楽しく・豊かに過ごせる施設を提供
- 2019年に運営する**高齢者施設に保護犬3匹を“正社員”として受け入れ**、入居者とふれあうことで癒しを提供し、時にリハビリのパートナーになっている
- 犬や猫の飼育代や人件費に加え、動物取扱業者としての許可取得や感染症を防止する設備整備など、**動物を施設に受け入れることに手間がかかる**ことが取り組み拡大のハードルとなり得る

■ ホーム犬の入社式



出典：株式会社アプルール

■ 保護犬を受け入れる想い



現在、日本で保護団体から犬の譲渡を受けられるのは一定の譲渡条件を満たした一般家庭に限られる場合が多いですが、全国に約39,000軒あるとされる高齢者施設が里親として受け皿となることで、年間約21,000頭を超える保護犬の殺処分数を減らし、**本来失われなくていい命を救う活動を応援し、今後もホーム犬を積極的に受け入れていきます。**

▶ NEXT : 企業の協力で保護先の増加へ

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- 保護犬を受け入れるための支援やコンサルを行う企業は乏しく、**動物を受け入れる先へのサポート体制が足りない**のではないかと
- **人間と動物が共に暮らせる環境が増え**、保護犬の受け入れ先が増えることが理想である
- 動物と共にサービス展開する**ノウハウを持つ企業が、コンサルの役割を担うことが期待**され、動物保護団体と受け入れ先を繋げて動物が人の代わりとなりコスト回収できるサービス提供が望まれる

■ 伝播経路と動物由来感染症

伝播	具体例	動物由来感染症の例	
直接伝播	咬まれる	狂犬病、カブノサイトファーガ・カニモルサス感染症、ハズシラ症	
	ひっかかれる	猫ひっかき病	
	触れる ：糞便 ：飛沫・塵埃 ：その他	トキソプラズマ症、回虫症、エキノコックス症、クリプトコッカス症、サルモネラ症 オウム病、コロナバクテリウム・ウルセランス感染症 皮膚糸状菌症、フルセラ症	
間接伝播	ダニ類	クリミア・コンゴ出血熱、ダニ媒介感染症、日本紅斑熱、つづが虫病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	
	ベクター媒介	蚊	日本脳炎、ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱、シカウイルス感染症
		ノミ	ペスト
		ハエ	腸管出血性大腸菌感染症
	環境媒介	水	クリプトスポリジウム症、レプトスピラ症
		土壌	炭疽、破傷風
	動物性食品媒介	肉	腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、カンピロバクター症、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)、住肉嚙子虫症
	鶏卵	サルモネラ症、	
	乳製品	牛型結核、Q熱、フルセラ症	
	魚介	アニサキス症、クドア症、ノロウイルス感染症	

出典：厚生労働省

■ ドッグセラピーで期待される効果



出典：ニチイ

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 環境省, 「犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」, 2023年3月15日参照 (https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html)
- 読売新聞, 「コロナ禍で安易に飼いたくなる犬猫、限界感じ手放す人も増加…専門家「寿命まで飼う覚悟して」」, 2022年1月14日 (<https://www.yomiuri.co.jp/national/20220114-OYT1T50057/>)
- 産経新聞, 「ブームの影で相次ぐ飼育放棄 コロナ禍に翻弄されるペット」, 2021年1月13日 (<https://www.sankei.com/article/20210113-WW5N2WAWCROUFD5Y7CQXKKYMY/2/>)
- ニチイ, 「ニチイのドッグセラピー」, 2023年4月4日参照 (<https://www.nichiigakkan.co.jp/service/dog/dogtherapy/>)
- 厚生労働省, 「動物由来感染症を知っていますか?」, 2023年4月4日参照 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000155663.html>)
- Yahooニュース, 「犬1000匹劣悪飼育の業者、なぜ営業を続けてこられたのか 「暗部」隠す生体販売ビジネス」 2021年12月8日 (<https://news.yahoo.co.jp/byline/ohamasahiko/20211208-00270979>)
- 株式会社アブルール, 「保護犬が新入社員に！ ホーム犬3匹の入社式を実施」, 2019年3月27日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000008.000039977.html>)
- まいどなニュース, 「高齢者施設で、保護犬たちが大活躍！ 実現まで5年…入居者の癒やしにリハビリ支援「いずれは看取りも」」, 2020年2月2日 (<https://maidonanews.jp/article/13088440>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。